

「図書館資料から紐解く我が国電気自動車開発の歴史」

第1部 「1940年代 日本の電気自動車開発、それは『たま』から始まった」

終了

第2部 「忽然と街頭から姿を消す電気自動車、一体何があったのか？」

終了

第3部 「環境問題やSDGsで、再び脚光を浴びる電気自動車」

今回開催

令和6年2/19(月)～3/15(金)開催

Point 1

高い技術力と技能を有する
日本の技術者が戦後の混乱期に
高性能の電気自動車を
開発していた事実

第1部の反響

Point 2

高性能の電気自動車が
10年ほどの期間で街頭から
忽然と姿を消してしまった理由

第2部の反響

Point 3

科学・技術の継承や
技能の伝承の重要性

新聞に記事が掲載されたことを受け、

「企画展」という学びの場で図書館員と市民の方々とのコミュニケーションの活性化

第1部 : 『たま』号に関する資料収集・発掘の人的ネットワークの萌芽

第2部 : 『たま』号に関する資料収集・発掘の人的ネットワークの拡大

その結果…

その結果…

サイエンスコミュニケーションがもたらした新たな図書館機能の拡充 = 好事例

○図書館に新たな地域資料を収集・保存できた

○雑誌『CAR topics』『PRINCE』等希少資料を収集・保存できた

そこで…

第3部

「環境問題やSDGsで、 再び脚光を浴びる電気自動車」

第1部・第2部の資料に加え

- ① 今回の企画展で皆さんに伝えたいこと
 - ・電気自動車は地球温暖化の絶対的「解」なのか
 - ・『たま』号と最新電気自動車の相違点
- ② 雑誌『PRINCE』（※寄贈資料の一部を先行展示）
- ③ 上記①、②に関連する資料（図書、雑誌）を展示します。



写真出典：日産自動車(株)

※「たま号」の現物展示はありません